

Cisco Meeting Server における Multiparty ライセンス (PMP および SMP) 詳細ガイド

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

1. [セットアップ LDAP 出典](#)

2. [ユーザ プロファイルを作成し、LDAP 出典と関連付けて下さい](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

概要

この資料に CMS ユーザに (PMP+) ライセンスと個人的な複数政党制または (SMP+) ライセンスと共有複数政党制を割り当てる方法を記述されています。

前提条件

CMS (Cisco Meeting Server) は現在複数政党制認可モデル on Cisco 最初に導入された Conductor および Cisco TelePresence Server と同じような複数政党制認可をサポートします。複数政党制ライセンスはユーザ (PMP+ ライセンス) 1 人あたりにある場合もありましたりまたは共有しました (SMP+ ライセンス)。ライセンスを確認するために正しく奪取されるべきいくつかのステップ展開されたり、そこにです。

要件

次の項目に関する知識が推奨されます。

- CMS
- 他 API 符号化の API クライアントアプリケーション、か習熟度
- PMP および SMP ライセンス

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

複数政党制ライセンスは Application Program Interface (API) 設定による CMS でしか割り当てることができません。従って複数政党制ライセンスを展開するために、次のものを持つことを必要とします:

- CMS
- Callbridge ライセンス (Release 鍵別名 CMS)
- 1つ以上 PMP や SMP ライセンス
- CMS API へのアクセス 資格情報
- 郵便集配人他ツール

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのような作業についても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

背景説明

注: この資料は郵便集配人他クライアントを使用して configurational ステップを記述したものです。適切な API コマンドが選択の他のどの他 API ツールによっても適用しますことに注目して下さい。

次のパラメータはこの技術情報で編集されます:

- **ユーザ・プロファイル**-ユーザはそれに割り当てられる PMP ライセンスがあるかどうか定義します (hasLicense アトリビュート)
- **ldapServers** は、**ldapMappings**、**ldapSources** (この例で使用されるオプションの) -それぞれの少なくとも 1 ユーザのサブセットに PMP ライセンスを割り当てるために定義されなければなりません
- PMP がすべてのユーザにグローバルに割り当てられる場合**システム プロファイル** (オプションの) -使用されるため
- PMP ライセンスが借用者 1人あたりに割り当てられる場合**借用者設定** (オプションの) -使用されるため

設定

PMP ライセンスはユーザ 1 人あたりに割り当てられます、CMS で個々のユーザの属性を編集できません。ライセンス 割り当ては**ユーザ・プロファイル** アトリビュートに基づいています。**ユーザ・プロファイル**は個々のユーザと関連付けることができません。その代り、**ユーザ・プロファイル**は準である場合もあります:

- グローバルに: `/api/v1/system/profiles` への**ユーザ・プロファイル**の関連付け
- 借用者 1人あたり: `/api/v1/tenants/<tenantID>` への**ユーザ・プロファイル**の関連付け
- **ldapSource** ごと: 少なくとも 1 **ldapMapping** および少なくとも 1 **ldapSource** ことを LDAP が単独で API によって設定されること、および少なくとも 1 つの **ldapServer** を含んでいる申し分なく設定されること**ユーザ・プロファイル**を `/api/v1/ldapSources/<ldapSourceID>` に関連付けます、-このステップのために...確認する必要があります

割り当てられた PMP ライセンスがある特定のユーザにリンクすることができないどの会議でも SMP ライセンスを代りに使用することに、デフォルトで設定されます。SMP ライセンスタイプは割り当てを必要としません。

LDAP によって API を設定することにしたら CMS の Web GUI から LDAP設定を取除く必要があります。

1. セットアップ LDAP 出典

API の LDAP 設定は 3 人の部で分けられます: LDAP サーバが、LDAP マッピングおよび LDAP 出典、およびすべては必要となります。

LDAP 出典はユーザの実原始です。出典ごとに定義される 1 つの LDAP サーバおよび 1 LDAP マッピングを持たなければなりません。複数の出典は同じ LDAP サーバ、および/または LDAP マッピングを共有できます。

ステップ 1. CMS にログインし、設定 > アクティブ ディレクトリにナビゲートして下さい。

- Web ページの設定を削除して下さい。今『SUBMIT』をクリックし、同期して下さい
- ステータス > Users の下で現在のもうユーザがないことを確認して下さい

ステップ 2. LDAP サーバを作成して下さい。

- /ldapServers に POST に郵便集配人他 API ツールを使用して下さい

```
アドレス ldap.example.com
portNumber 389
username cn=administrator、cn=users、
dc=example、dc=com
password password
保護して下さい False
```

- 応答 ヘッダーの LDAP サーバ ID を書き留めて下さい

ステップ 3. LDAP マッピングを作成して下さい。

- /ldapMappings に POST に郵便集配人他 API ツールを使用して下さい

```
nameMapping $cn$
jidMapping $sAMAccountName$@example.com
coSpaceUriMapping $sAMAccountName$.space
coSpaceNameMapping $cn$ 会議領域
coSpaceCallIdMapping $ipPhone$
```

- 応答 ヘッダーで戻る ID をマッピングする theLDAP を書き留めて下さい

ステップ 4. LDAP 出典を作成して下さい。

- /ldapSources に POST に郵便集配人他 API ツールを使用して下さい

- 1 つの行としてフィルタを入力して下さい (示されていた例で読みやすさのための 3 つの行で壊れています)。LDAP 出典 ID を書き留めて下さい

```
server マッピング
ステップ 1.2> で作成される <LDAPServerID>
ステップ 1.3> で作成される <LDAPMappingID>
baseDN dc=example,dc=com
(及び
フィルタ (memberof=cn=SMPusers、ou=Demo ユーザ、dc=example、dc=com
(!
```

```
        (memberof=cn=PMPUsers、ou=Demo ユーザ、dc=example、dc=com )
    ))
))
```

この LDAP 出典はあるが、だれが SMPUsers LDAP グループに PMPUsers グループにあってはいけない import all ユーザ。

- /ldapSources に POST に郵便集配人他 API ツールを使用して下さい

- LDAP 出典 ID を書き留めて下さい

server ステップ 1.2> で作成される <LDAPServerID

マッピング

グループ ステップ 1.3> で作成される <LDAPMappingID

と

baseDN dc=example,dc=com

フィルタ (memberof=cn=PMPUsers、ou=Demo ユーザ、dc=example、dc=com)

この LDAP 出典は PMPUsers グループにある import all ユーザ。

ステップ 5.同期化ユーザ。

- /ldapSyncs に POST に郵便集配人他 API ツールを使用して下さい

ldapSource ステップ 1.4> で作成される <1st LDAPSourceID

- /ldapSyncs に POST に郵便集配人他 API ツールを使用して下さい

ldapSource ステップ 1.4> で作成される <2nd LDAPSourceID

ステップ 6.ユーザを確認して下さい。

現在進行中のおよびスケジュールされた LDAP 同期化イベントをリストするために /ldapSyncs の GET を実行できます。同期化が既に行われた場合、API ノードは既に削除されよう (これはデフォルトの動作であり、変更することができます)。Web admin によってインポートされたユーザのリストを同様にチェックできます。

2. ユーザ プロファイルを作成し、LDAP 出典と関連付けて下さい

ステップ 1. SMP ユーザ向けのユーザ・プロファイルを作成して下さい。

- /userProfiles に POST に郵便集配人他 API ツールを使用して下さい

hasLicense false

ステップ 2. PMP ユーザ向けのユーザ・プロファイルを作成して下さい。

- /userProfiles に POST に郵便集配人他 API ツールを使用して下さい

hasLicense true

ステップ 3.デフォルトとして SMP を設定して下さい。

SMP ユーザ・プロファイルのグローバルプロファイルを更新して下さい。

- /system/profiles に置くのに郵便集配人他 API ツールを使用して下さい

ユーザ・プロファイル ステップ 2.1> で作成される <user プロファイル ID

プロフィール

ステップ 4. PMPUsers グループのユーザと PMP ライセンスを関連付けて下さい。

PMP ユーザ プロファイルの PMPUsers AD グループのメンバーのための LdapSource をアップデートして下さい。

- 作成される /ldapSources/<2nd に LDAPSourceID 置くのにステップ 1.4> で郵便集配人他 API ツールを使用して下さい

ユーザ・プロフィール ステップ 2.2> で作成される <user プロファイル ID

- ステップ 5 によって LDAP 同期化オペレーションを、繰り返して下さい

確認

ユーザの正常なインポートはステータス > Users の下の CMS Web GUI ページで確認することができます。

トラブルシューティング

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。